

参加者からの質問（10月18日（金）原先生 防災講演会 アンケートより）

1. ○ 丸太を用いた液状化対策についての質問なのですが、耐久年数はいくらなのか、こういった木材が一番良いのか気になります。

耐久年数は地下水位以下で埋設された丸太は永久に機能を発揮します。木材の樹種による制限はありません。

- 以前から液状化に対して直接的な対策は無いのかと考えていましたので、本講演でいくつかの工法があると知り、期待・希望が持てました。原先生の開発された丸太を打ち込む工法の耐用年数はどれぐらいなのか気になりました。

当方らが開発した工法は、地下水位以深（あるいは、地下水位より上のサクションが働く地盤内）であれば、半永久定期的に効果を発揮します。参考までに、土木構造物の最低供用年数は50年が標準です。

2. 車イスの実験がありました。車イスのタイヤが太かった場合も同じ結果になるのでしょうか。

タイヤの多少の太さの違いに関わらず、結果はほぼ同等になると思料しています。荷重が等しい場合、沈下量はタイヤの接点荷重に依存しますが、タイヤの多少の誤差はほとんど影響しません。

3. 中学校に勤務している者です。私の学校も液状化の危険度がかなり高い地域になっています。先日、避難訓練を行いました。学校の外、校庭に逃げれば安全という危険な認識があると感じました。そこで、教育現場における避難訓練で「液状化」に焦点を当てた事例や先生の知見がありましたら教えていただきたいです。よろしく願いいたします。

液状化は揺れ始めて直ぐに生じる現象であり、津波避難に影響を及ぼすこと、液状化した地盤は緩く堆積したもので徒歩移動は困難なこと、液状化により破壊した構造の復旧には時間と費用を要することをお伝えいただけたら幸いです。

4. 阪神淡路大震災の時は神戸で勤務していましたが、港湾の液状化は酷か

参加者からの質問（10月18日（金）原先生 防災講演会 アンケートより）

ったです。東京駅丸の内駅舎の基礎も木杭だったのでしょうか。

丸の内の駅舎は約 11000 本の木杭で支持されていました。出土した木杭の腐朽はほとんどなく、健全な状態が保たれていました。詳細は土木学会論文集で公開されています。